

令和3年度福島県献血推進計画実績（抜粋）

（令和4年3月末現在）

第1節 令和3年度に献血により確保すべき血液の目標量

1 献血により確保すべき血液の目標量

(1) 需要見込量

令和3年度の輸血用血液製剤は赤血球製剤105,910単位、血漿製剤^{しょう}28,000単位、血小板製剤108,500単位が必要と見込まれる。

(2) 献血目標量

東北六県で必要とする血液（原料血漿^{しょう}を含む。）を各県で按分して確保するため、令和3年度に献血により本県において確保すべき血液の目標量を、200mL献血が287リットル、400mL献血が20,162リットル、血漿成分献血^{しょう}が7,697リットル、血小板成分献血が4,848リットルの計32,994リットルとする。

計画に対する実績（令和4年3月末現在）		（前年同期比）	
200mL献血：	334.00L	達成率 116.4%	対前年比 122.3%
400mL献血：	20,313.60L	達成率 100.8%	対前年比 100.4%
血漿成分献血：	8,408.99L	達成率 109.3%	対前年比 96.3%
血小板成分献血：	5,110.38L	達成率 105.4%	対前年比 101.4%
合 計：	34,166.97L	達成率 103.6%	対前年比 99.7%
原料血漿確保量：		88,205.00L	達成率 105.3% 対前年比 98.9%
* 原料血漿確保量及び達成率については、東北ブロックにおける実績			

2 全血献血及び成分献血の実施方法

(1) 全血献血（200mL、400mL）

全血献血は、県内の各市町村を巡回する福島県赤十字血液センター（以下「血液センター」とする。）の移動採血車による確保を主体とする。血液センター（固定施設）においては、Rhマイナス型や緊急時の全血献血への対応と併せて、通常的全血献血、特に400mL献血の確保にも対応する。

計画に対する実績（令和4年3月末現在）		（単位：L）	
	移動採血車 （市 町 村）	血液センター	合 計
目 標	15,950.0	4,498.0	20,448.0
全血献血量	16,151.2	4,496.4	20,647.6
目標達成率	101.26%	99.96%	100.98%

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

1 献血に関する普及啓発活動の実施

ア 献血推進キャンペーン等の実施

- (ア) 県は、特に必要性が高い400mL献血及び成分献血の推進及び普及のため、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月から2月までに「はたちの献血キャンペーン」を実施する他、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、テレビ、SNSを含むインターネット、ポスター等様々な広報手段を用いて、県民に献血への理解と協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため関係者に必要な協力を求める。また、ポスター等についてはインターネット上の情報にアクセスしやすい工夫をする。
- (イ) 県、市町村及び血液センターは、これらの献血推進活動を実施する。
- (ウ) 県は、市町村等関係機関に対して文書等による事業の協力依頼を行う。
- (エ) 県は、原則として7月の「愛の血液助け合い運動」月間中、県内13市において、各市との共催による街頭献血キャンペーンを開催する。

愛の血液助け合い運動（7月1日から同月31日まで）

実施状況

- ・ 県内全域において、別紙のとおり運動を実施した。

はたちの献血キャンペーン（令和4年1月から同年2月まで）

実施状況

- ・ 市町村等関係機関に対して、文書等による事業の協力依頼を行った。
- ・ ポスターを市町村、高等学校、福島県献血推進協力会等に配布した。
- ・ ラジオの県政広報番組や新聞を活用した広報等を行った。

イ 若年層の献血への理解を深めるための普及啓発

県、市町村及び血液センターは、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等に対して、ボランティア活動である献血について情報提供や学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけの支援を行う。

実施状況

- ・ 県内各高等学校等において、献血セミナー等を開催し、県及び血液センターから、輸血医療の現状や献血の必要性について説明した。

- (ア) 県は、「ジュニア献血ポスターコンクール事業」として、以下の内容を実施する。
- a 将来の献血者確保と一般県民への献血思想の普及啓発を目的として、県教育委員会の協力の下に、中学生を対象とした献血基礎知識の啓発を兼ねたポスターコンクールを実施する。
- b 優秀作を用いたポスターを作成し中学校等に配布し、広く県民に対し、献血思想の普及啓発を行う。

実施状況

- ポスターコンクール応募状況 43校 133作品
- 受賞者
最優秀賞 迎彩花さん (石川町立石川中学校 3年生)
優秀賞 加藤有紗さん (福島市立渡利中学校 1年生)
大槻美月さん (須賀川市立第一中学校 2年生)
入選 武藤七海さん (会津若松市立第一中学校 3年生)
高野愛莉さん (いわき市立平第一中学校 2年生)
根本唯花さん (須賀川市立第一中学校 2年生)
松村志乃さん (いわき市立中央台南中学校 1年生)
三瓶風紗さん (本宮市立白沢中学校 3年生)
川島あゆみさん (いわき市立平第一中学校 2年生)
菅原有真さん (須賀川市立第一中学校 3年生)
坂本真杜さん (白河市立白河中央中学校 1年生)
- 表彰式の開催 令和3年12月25日 福島県赤十字血液センター
- 受賞作品展示 令和4年1月より血液センター献血ルーム待合室に掲示
- 受賞作品を活用した献血推進ポスターを各中学校、市町村等に配付した。

- (イ) 県は、大学生等ボランティアによるキャンペーンを支援し、ボランティア団体の育成及び若年層献血者の増加を図る。
- (ウ) 県及び血液センターは、次世代の献血者を育てていくために親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、子育て中の20代、30代までを中心に啓発を行うとともに、親子が参加しやすい献血推進活動の実施、並びに採血所に託児体制を確保するなど、親子が献血に触れ合う機会を設け、利用しやすい環境の整備を行う。

実施状況

- 血液センターにおいて「血液センター夏休み親子見学会」を開催し、親子で献血に触れ合う機会を設けることができた。

- (エ) 県及び血液センターは、特に若年層への啓発を効果的に行うため、報道機関の協力を得て、若者と同世代のアイドル等による献血推進ラジオ番組や、若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等インターネットを含む様々な広報手段を用いて気軽に目に触れる機会を増やし、若年層へ、献血への協力意識を喚起する。

実施状況

- テレビ及びラジオによる広報
ふくしまFM「キビタンスマイル～ひとつ、ひとつ、実現するふくしま～」で、「はたちの献血」(令和4年1月3日放送)の呼びかけを行った。
- インターネットによる広報
県公式ツイッターによる広報
薬務課ホームページ「キビチーちゃん献血ミュージアム」による広報
血液センターのツイッター及びフェイスブックによる広報
血液センターホームページによる広報

2 献血功労等の顕彰

ア 県は、献血事業に功労のあった団体又は個人に対して福島県知事感謝状を贈呈する。

イ 県は、各市町村の協力を得て、国が開催する献血運動推進全国大会における厚生労働大臣表彰等に対し、積極的に該当団体等を推薦する。

実施状況

- 令和3年10月14日に福島テルサで行われた令和3年度健康ふくしま21推進県民表彰式において、献血事業功労知事感謝状を10団体に贈呈した。

1	日立Astemo株式会社 福島工場	(桑折町)
2	伊達地方衛生処理組合	(伊達市)
3	福島太陽誘電株式会社	(伊達市)
4	東北電力ネットワーク株式会社 須賀川電力センター	(須賀川市)
5	八重洲無線株式会社 須賀川工場	(須賀川市)
6	株式会社ヨコハマモーターセールス 石川工場	(石川町)
7	赤沢工業団地自治会	(矢吹町)
8	日本オートマチックマシン株式会社 原町事業所	(南相馬市)
9	福島グリーンライオンズクラブ	(福島市)
10	常磐興産株式会社 スパリゾートハワイアンズ	(いわき市)

- 第57回献血運動推進全国大会における厚生労働大臣表彰状候補者として3団体、同感謝状候補者として12団体を推薦し、受賞した。

なお、例年、福島県赤十字血液センターで開催していた表彰状等伝達式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見合わせ、個別に伝達を行った。

1	厚生労働大臣表彰状 (3団体)	
	岩通マニユファクチャリング株式会社	(須賀川市)
	福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院	(塙町)
	藤倉コンポジット株式会社 原町工場	(南相馬市)
2	厚生労働大臣感謝状 (12団体)	
	三井ミーハーナイト・メタル株式会社 伊達製鋼所	(伊達市)
	アサヒ電子株式会社	(伊達市)
	石川町建設協力会	(石川町)
	石川町役場	(石川町)
	下田工業株式会社 福島工場	(石川町)
	東北ミドリ安全工業株式会社	(石川町)
	東洋シャフト株式会社 福島工場	(石川町)
	株式会社スズキ製作所	(塙町)
	株式会社阿部紙工	(福島市)
	西濃運輸株式会社 福島支店	(福島市)
	東開工業株式会社	(福島市)
	小名浜建設業協同組合	(いわき市)

令和3年度「愛の血液助け合い運動」について

1 目的

すべての血液製剤を国民の献血によって安定的に確保する体制を早期に確立するため、広く県民の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に、継続的な推進が必要な成分献血・400mL献血への協力と血液製剤の適正使用への協力を求め、献血運動の一層の推進を図ることを目的とする。

2 実施期間 令和3年7月1日～7月31日

3 本運動期間中の献血受け入れ実績

	献血者数 (人)	対前年比
200mL	162	123.7%
400mL	3,910	88.9%
成分	2,081	101.0%
計	6,153	93.4%

4 運動行事の実施状況

(1) 実施要綱

福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部の主催により、県内23団体の後援を得て本運動を実施した。

(2) 街頭献血キャンペーン

県内13市において、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、街頭献血キャンペーンを中止または規模を縮小して実施した。

13市街頭キャンペーン結果 単位 (人) (人) (人) (台) (人)

月 日	市 名	献血者数	200mL	400mL	台数	1稼働人数
7月 1日 (木)	相馬市	70	1	69	1	70
7月 4日 (日)	福島市	49	1	48	1	49
7月 4日 (日)	南相馬市	113	0	113	2	56.5
7月10日 (土)	田村市	44	3	41	1	44
7月11日 (日)	郡山市	51	4	47	1	51
7月11日 (日)	二本松市	51	0	51	1	51
7月11日 (日)	喜多方市	63	0	63	1	63
7月12日 (月)	白河市	164	14	150	2	82
7月18日 (日)	会津若松市	81	4	77	1	81
7月25日 (日)	須賀川市	68	3	65	2	34
7月25日 (日)	いわき市	96	2	94	2	48
7月28日 (水)	伊達市	134	0	134	3	44.7
7月31日 (土)	本宮市	86	0	86	2	43
計		1,070	32	1,038	20	53.5

	R3	R2	増減数	対前年比
200mL人数	32	27	5	118.5%
400mL人数	1,038	1,160	-122	89.5%
計	1,070	1,187	-117	90.1%

(3) 「愛の血液助け合い運動」知事メッセージの伝達

各市町村長あてに知事メッセージを送付し、更なる献血事業への取り組み強化を依頼した。

(4) 事業所に対する協力依頼

本運動期間中に、各保健福祉事務所（保健所）、市町村及び血液センターの職員が知事メッセージを携えて献血協力事業所等を訪問し、献血への協力依頼を行った。

(5) 市町村における実施

多数の市町村において、ポスターの掲示と併せて、広報紙、回覧板、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、新聞記事掲載等による広報を行い、献血の普及啓発に努めた。

また、防災無線やラジオ放送による呼びかけ、広報車の巡回による広報なども行われた。

5 その他

・6/30(水)に福島報道機関に投げ込みを行い広報を行ったほか、ふくしまFM「キビタンスマイル」で呼びかけを行った。

・県公式ツイッター等を活用し広報を行った。